

ダニエル書

第一章 ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザル、エルサレムにきたりて之を攻圍みしに主ユダの王エホヤキムと神の器具幾何とをかれの手にわたしたまひければ則ちこれをシナルの地に携へゆきて己の神の家にいたりその器具を己の神の庫に蔵めたり三茲に王寺人の長アシベナスに命じてイスラエルの子孫の中より王の血統の者と貴族たる者幾何を召寄しむ四 即ち身に疵なく容貌美しくして一切の智慧の道に穎く知識ありて思慮深く王の宮に侍るに足る能幹ある少きを召寄しめこれにカルデア人の文學と言語とを學ばせんとす五 是をもて王は命を下して日々に王の用ある饌と王の飲む酒とを彼らに與へしめ三年の間かく彼らを養ひ育てめんとす是の後に彼らをして王の前に立ことを得せしめんとてなり六 是等の中にユダの人ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤありしが七 寺人の長かれらに名をあたへてダニエルをベルテシヤザルと名けハナニヤをシヤテラクと名けミシヤエルをメシヤクと名けアザリヤをアベデネゴと名く八 然るにダニエルは王の用ある饌と王の飲む酒とをもて己の身を汚すまじと心に思ひさだめたれば己の身を汚さざらしめんことを寺人の長に求む九 以前よりエホバ、ダニエルをして寺人の長の慈悲と寵愛とを蒙らしめたまふ一〇 是において寺人の長ダニエルに言ける

は吾主なる王すでに命をくだして汝らの食物と汝らの飲物を頒たしめたまへば我れを畏る恐くは彼なんぢらの面の其同輩の少者等と異にして憂色あるを見ん然る時は汝らのために我首王の前に危からん二 寺人の長はメルザル官をしてダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル及びアザリヤを監督らせ置たればダニエル之に言けるは三 請ふ十日の間 僕等を験したまへ即ち我らには菜蔬を與へて食せ水を與へて飲せよ三 而して我らの面と王の饌を食ふ少者どもの面とを較べ見汝の視るところにしたがひて僕等を待ひたまへと四 是において彼この事を聴いれ十日のあひだ彼らを験しけるが五 十日の後にいたりて見るに王の饌を食へる諸の少者よりも彼らの面は美しくまた肥え臑つきてありければ一六 メルザル官すなはち彼らの分なる饌と彼らの飲べき酒とを撤きさりて菜蔬をこれに與へたり一七 この四人の少者には神知識を得させ諸の文學と智慧に穎からしめたまへりダニエルはまた能く各諸の異象と夢兆を曉る一八 王かねて命をくだし少者どもを召いるる迄に經べき日を定めおきしがその日數も過たるに因て寺人の長かれらを引てネブカデザルの前にいたりければ一九 王かれらと言談へり彼ら一切の中にはダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤに比ぶ者あらざりければこの四人は王の前に侍れり二〇 王かれらに諸の事を詢たづね見に彼らは智慧の學においてその全國の博士と法術士に愈ること十倍なり二三 ダニエルはクロス王の元年までありき

第二章一ネブカデネザルの治世の二年にネブカデネザル夢を見それがために心に思ひなやみて復睡ること能はざりき二是をもて王は命を下し王のためにその夢を解せんとして博士と法術士と魔術士とカルデヤ人とを召しめられたれば彼ら來りて王の前に立つ三王すなはち彼らにむかひ我夢を見その夢の義を知んとして思ひなやむと言ければ四カルデヤ人等スリア語をもて王に申しけるは願くは王長壽かれ請ふ僕等にその夢を語りたまへ我らの解明を進めたてまつらんと五王こたへてカルデヤ人に言けるは我すでに命を出せり汝等もしその夢とこれが解明とを我に示さざるにおいては汝らの身は切裂れ汝らの家は廁にせられん六又汝らもしその夢とこれが解明を示さば臚物と賞賚と大なる尊榮とを我より獲ん然ばその夢と之が解明を我に示せ七彼らまた對へて言けるは願くは王僕どもにその夢を語りたまへ然ば我らその解明を奏すべしと八王こたへて言けるは我あきらかに知る汝らは吾命の下りしを見るが故に時を延さんことを望むなり九汝らもしその夢を我に示さずば汝らを處置するの法は只一のみ汝らは相語らひて虚言と妄誕なる詞を我前にのべて時の變るを待んとするなり汝ら今先その夢を我に示せ然すれば汝らがその解明をも我にしめし得ることを我しらんと一〇カルデヤ人等こたへて王の前に申しけるは世の中には王のその事を示し得る人一箇もなし是をもて王たる者主たる者君たる者等の中に斯る事を博士または法術士またはカルデヤ人に問たづねし者

絶てあらざるなり一王の問たまふその事は甚だ難し肉身なる者と共に居ざる神々を除きては王の前にこれを示すことを得る者無るべしと二斯りしかば王怒を發し大に憤りバビロンの智者をことごとく殺せと命じたり三即ち此命くだりければ智者等は殺されんとせり又ダニエルとその同僚をも殺さんととめたり四茲に王の侍衛の長アリオク、バビロンの智者等を殺さんとて出きたりければダニエル遠慮と智慧とをもて之に應答せり五すなはち王の高官アリオクに對へて言けるは王なにとて斯すみやかにこの命を下したまひしやとアリオクその事をダニエルに告しらせられたれば六ダニエルいりて王に乞求め言ふ暫くの時日を賜へ然ばその解明を王に奏せんと七斯てダニエルその家にかへりその同僚ハナニヤ、ミシヤエルおよびアザリヤにこの事を告しらせ八共にこの秘密につき天の神の憐憫を乞ひダニエルとその同僚等をしてその他のバビロンの智者とともに滅びさらしめんことを求めたりしが九ダニエルつひに夜の異象の中にこの秘密を示されければダニエル天の神を稱賛ふ一〇即ちダニエル應へて言けるは永遠より永遠にいたるまでこの神の御名は讚まつるべきなり智慧と權能はこれが有なればなり二彼は時と期とを變じ王を廢し王を立て智者に智慧を與へ賢者に知識を賜ふ三彼は深妙秘密の事を顯し幽暗にあるところの者を知たまふまた光明彼の裏にあり三三わが先祖等の神よ汝は我に智慧と權能を賜ひ今われらが汝に乞求め

たるどころの事を我にしめし給へば我感謝して汝を稱賛す即ち
 汝は王のかの事を我らに示したまへり四 是においてダニエル
 は王がバビロンの智者等を殺すことを命じおけるアリオクの許
 にいたり即ちいりてこれに言けるはバビロンの智者等を殺す勿
 れ我を王の前に引いたれよ我その解明を王に奏上ぐべしと五
 アリオクすなはちダニエルを引て急ぎ王の前にいたり王にまう
 しけるは我ユダの俘囚人の中に一箇の人を得たり是者その
 解明を王にまうしあげん六 王こたへてベルテシヤザルと名く
 るダニエルに言けるは汝は我が見たる夢とその解明とを我に
 知らずることを得るやと七 王ダニエルすなはち應へて王の前に
 言けるは王の問たまふ秘密は智者法術士博士卜筮師など之を王
 に奏上ぐることを得ず八 然ど天に一の神ありて秘密をあらは
 し給ふ彼後の日に起らんところの事の如何なるかをネブカデネ
 ザル王にしらせたまふなり汝の夢汝が牀にありて想見たまひ
 し汝の腦中の異象は是なり九 王よ汝牀にいりし時將來の事の
 如何を想ひまはしたまひしが秘密を顯す者將來の事の如何を汝
 にしめし給へり三〇 我がこの示現を蒙れるは凡の生る者にまさ
 りて我に智慧あるに由にあらず唯その解明を王に知しむる事
 ありて王のつひにその心に想ひたまひし事を知にいたり給はん
 がためなり三一 王よ汝は一箇の巨なる像の汝の前に立るを見た
 まへり其像は大きくしてその光輝は常ならずその形は畏ろしくあ
 り三二 其像は頭は純金胸と兩腕とは銀腹と腿とは銅三三 脛は

鐵脚は一分は鐵一分は泥土なり三四 汝見て居たまひしに遂に
 一箇の石人手によらずして撃れて出でその像の鐵と泥土との脚
 を撃てこれを碎けり三五 斯りしかばその鐵と泥土と銅と銀と金
 とは皆ともに碎けて夏の禾場の糠のごとくに成り風に吹はらは
 れて止るところ無りき而してその像を撃たる石は大なる山とな
 りて全地に充り三六 是の夢なり我らその解明を王の前に陳ん
 三七 王よ汝は諸王の王にいませり即ち天の神汝に國と權威と
 能力と尊貴とを賜へり三八 また人の子等野の獸畜および天空の
 鳥は何處にをる者にもあれ皆これを汝の手に與へて汝にこれを
 ことごとく治めしめたまふ汝はすなはち此金の頭なり三九 汝の
 後に汝に劣る一の國おこらんまた第三に銅の國おこりて全世界
 を治めん四〇 第四の國は堅きこと鐵のごとくならん鐵は能く萬
 の物を毀ち砕くなり鐵の是等をごとく打砕くがごとく其
 國は毀ちかつ砕くことをせん四一 汝その足と足の趾を見たまひ
 しに一分は陶人の泥土二分は鐵なりければその國は分裂たる
 者ならん又汝鐵と粘土との混和たるを見たまひたればその國
 は鐵のごとく強からん四二 その足の趾の一分は鐵一分は泥土な
 りしごとくその國は強きところもあり脆きところも有ん四三 汝
 が鐵と粘土との混りたるを見たまひしごとく其等は人草の種子
 と混らん然ど鐵と泥土との相合せざるごとく彼と此と相合する
 こと有じ四四 この王等の日に天の神一の國を建たまはん是は
 何時までも滅ぶること無らん此國は他の民に歸せず却てこの諸

の國を打破りてこれを滅せん是は立ちて永遠にいたらん四五かの石の人手によらずして山より墜れて出で鐵と銅と泥土と銀と金を打碎きしを汝が見たまひしは即ちこの事なり大御神の後に起らんところの事を王にしたらせたまへるなりその夢は眞にしてこの解明は確なり四六 是においてネブカデネザル王は俯伏してダニエルを拜し禮物と香をこれに献ぐることを命じたり四七 而して王こたへてダニエルに言けるは汝がこの秘密を明かに示すことを得たるを見れば誠に汝らの神は神等の神王等の主にして能く秘密を示す者なりと四八 かくて王はダニエルに高位を授け種々の大なる賜物を與へてこれをバビロン全州の總督となしまたバビロンの智者等を統る者の首長となせり四九 王またダニエルの願によりてシヤデラクとメシヤクとアベデネゴを擧てバビロン州の事務をつかさどらしめたりダニエルは王の宮に在る

第三章 茲にネブカデネザル王一箇の金の像を造れりその高は六十キュビトその横は六キュビトなりき即ちこれをバビロン州のドラの平野に立たり二 而してネブカデネザル王は州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の諸有司を召集めそのネブカデネザル王の立たる像の告成禮に臨ましめんとせり三 是においてその州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の諸有司等はネブカデネザル王の立たる像の告成禮に臨みそのネブカデネザル王の立たる像の前に立り四 時に傳令者大聲に呼

はりて言ふ諸民諸族諸音よ汝らは斯命ぜらる五 汝ら喇叭簫琵琶琴瑟箏簫などの諸の樂器の音を聞く時は俯伏しネブカデネザル王の立たまへる金像を拜すべし六 凡て俯伏して拜せざる者は即時に火の燃る爐の中に投こまるべし七 是をもて諸民等喇叭簫琵琶琴瑟などの諸の樂器の音を聞くや直に諸民諸族諸音みな俯伏しネブカデネザル王の立たる金像を拜したり八 その時或力ルデヤ人等進みきたりてユダヤ人を讓奏せり九 即ち彼らネブカデネザル王に奏聞して言ふ願くは王長壽かれ一〇 王よ汝は命を出して宣へり凡て喇叭簫琵琶琴瑟箏簫などの諸の樂器の音を聞く者はみな俯伏しこの金像を拜すべし二 凡て俯伏し拜せざる者はみな火の燃る爐の中に投こまるべしと三 此に汝が立てバビロン州の事務を司どらせ給へるユダヤ人シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴあり王よ此人々は汝を尊ばず汝の神々にも事へず汝の立たまへる金像をも拜せざるなりと三 是においてネブカデネザル王怒りかつ憤りてシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを召寄よと命じければ即ちこの人々を王の前に引きたりしに四 ネブカデネザルかれらに問て言けるはシヤデラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら我神に事へずまた我が立たる金像を拜せざるは是れ故意にするなるか五 汝らもし何の時にあれ喇叭簫琵琶琴瑟箏簫などの諸の樂器の音を聞く時に俯伏し我が造れる像を拜することを爲ば可し然ど汝らもし拜することをせず即時に火の燃る爐の中に投こまるべし何の神が能く汝らを

わが手より救ひいだすことをせん六シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴ對へて王に言けるはネブカデネザルよこの事において我ら汝に答ふるに及ばず七もし善らんには王よ我らの事ふる我らの神我らを救ふの能あり彼その火の燃る爐の中と汝の手の中より我らを救ひいださん八假令しからざるも王よ知たまへ我らは汝の神々に事へずまた汝の立たる金像を拜せし九是においてネブカデネザル怒氣を充しシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴにむかひてその面の容を變へ即ち爐を常に熱くするよりも七倍熱くせよと命じ二〇またその軍勢の中の力強き人々を喚びシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを縛りてこれを火の燃る爐の中に投こめと命じたり二一是をもて此人々はその褲子羽織外套およびその他の服装を着たるままにて縛られて火の燃る爐の中に投こまれたりしが三王の命はなほだ急にして爐は甚だしく熱しむれば彼のシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを引抱へゆるける者等はその火焰に焼ころされたり三三また此シヤデラク、メシヤク、デベデネゴの三人は縛られたるままにて燃る爐の中に落りぬ四時にネブカデネザル王驚きて急忙しくたちあがり大臣等に言ふ我らは三人を縛りて火の中に投げいれざりしや彼ら王にこたへて言ふ王よ然りと五王また應へて言ふ今我見るに四人の者線綫解て火の中に歩みを取り凡て何の害をも受ずまたその第四の者の容は神の子のごとしと六ネブカデネザルすなはちその火の燃る爐の口に進みよりて呼て

言ふ至高神の僕シヤデラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら出きたれと是においてシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴその火の中より出きたりしかば三七州牧將軍方伯および王の大臣等集りて比人々を見たり此人々の身は火もこれを害する力なかりきまたその頭の髪は焼けずその衣裳は傷ねず火の臭氣もこれに付ざりき三八ネブカデネザルすなはち宣て曰くシヤデラク、メシヤク、アベデネゴの神は讚べき哉彼その使者を遣りて己を頼む僕を救へりまた彼らは自己の神の外には何の神にも事へずまた拝せざらんとて王の命をも用ひず自己の身をも捨てり二九然ば我今命を下す諸民諸族諸音の中凡てシヤデラク、メシヤクおよびアベダネゴの神を嘗る者あらばその身は切裂れその家は厠にせられん其は是のごとくに救を施す神他にあらざればなりと三〇かくて王またシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴの位をすすめてバビロン州にをらしむ

第四章一ネブカデネザル王全世界に住める諸民諸族諸音に諭す願くは大なる平安汝らにあれ二至高神我にむかひて徴證と奇蹟を行へり我これを知しむることを善と思ふ三嗚呼大なるかなその徴證嗚呼盛なるかなその奇蹟その國は永遠の國その權は世々限なし四我ネブカデネザルわが家に安然に居りわが宮に榮え居れり五我一の夢を見て之がために懼れ即ち床にありてその事を想ひめぐらしその我腦中の異象のために心をなやませり六是に於て我命を下しバビロンの智者をことごとく我前に召よ

せしめてその夢の解明を我にしめさせんと爲たれば七すなはち博士法律士カルデヤ人卜筮師等きたりしに因て我その夢を彼らに語りけるに彼らはその解明を我にしめすことを得ざりきハかくて後ダニエルわが前に來れり彼の名は吾神の名にしたがひてベルテシヤザルと稱へられその裏には聖神の靈やどれり我その夢を彼の前に語りて曰けらく九博士の長ベルテシヤザルよ我しる汝の裏には聖神の靈やどれば如何なる秘密も汝には難き事なし我が夢に見たるところの事等を聞きその解明を我に告げよ○我が床にありて見たる吾腦中の異象は是のごとし我觀しに地の當中に一の樹ありてその丈高かりしが二その樹長じて強固なり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり三その葉は美しくその菓は饒にして一切の者その中より食を得また野の獸その蔭に臥し空の鳥その枝に棲み凡て血氣ある者みな是によりて身を養ふ三我床にありて得たる腦中の異象の中に一箇の警寤者一箇の聖者の天より下るを見たりしが四彼聲高く呼はりて斯いへり此樹を伐たふしその枝を斫はなしその葉を揺おとしその果を打散し獸をしてその下より逃はしらせ鳥をしてその枝を飛さらしめよ五但しその根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天よりくだる露に濡れまた地の草の中にて獸とその分を同じうせん六又その心は變りて人間の心のごとくならず獸の心を稟て七の時を経ん七この事は警寤者等の命によりこの事は

聖者等の言による是至高者人間の國を治めて自己の意のままにこれを人に與へまた人の中の最も賤き者をその上に立たまふといふ事を一切の者に知しめんがためなりハ我ネブカデネザル王この夢を見たりベルテシヤザルよ汝その解明を我に述よ我國の智者は執も皆その解明を我に示すことを得ざりしが汝は之を能せん其は汝の裏には聖神の靈やどればなりと九その時ダニエル又の名はベルテシヤザルといふ者暫時の間驚き居り心に深く懼れたれば王これに告て言りベルテシヤザルよ汝この夢とその解明のために懼るるにおよばずとベルテシヤザルすなはち答へて言けらく我主よ願くはこの夢汝を惡む者の上にかからん事を願くは此解明汝の敵にのぞまんことを○汝が見たまひし樹すなはちその長じて強くなり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり三その葉は美しくその菓は饒にして一切の者その中より食を得またその下に野の獸臥しその枝に空の鳥棲たる者三王よ是はすなはち汝なり汝は長じて強くなり汝の勢ひは盛にして天におよび汝の權は地の極にまでおよべり三王また一箇の警寤者一箇の聖者の天より下りて斯言ふを見たまへり云くこの樹を伐たふして之をそこなへ但し其根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天よりくだる露に濡れ野の獸とその分を同じうして七の時を経ん四王よその解明は是の如し是即ち至高者の命にして王我主に臨まんとする者なり五即ち汝は逐

れて世の人と離れ野の獣とともに居り牛のごとくに草を食ひ天よりくだる露に濡れん是の如くにして七の時を経て汝つひに知ん至高者人間の國を治めて自己の意のままに之を人に與へ給ふと云ふ又彼らその樹の根の上の斬株を遣しおけと言たれば汝の國は汝が天は主たりと知にいたる時まで汝を離れん云々然ば王よ吾諫を容れ義をおこなひて罪を離れ貧者を憐みて惡を離れよ然らば汝の平安あるひは長く続かんといふこの事みなネブカデネザル王に臨めり三十二箇月を経て後王バビロンの王宮の上に歩みをり三〇王すなはち語りて言ふ此大なるバビロンは我が大なる力をもて建て京城となし之をもてわが威光を耀かす者ならずや三その言なほ王の口にある中に天より聲降りて言ふネブカデネザル王よ汝に告ぐ汝は國の位を失はん三汝は逐れて世の人と離れ野の獣と共に居り牛のごとくに草を食はん斯の如くにして七の時を経て汝つひに知ん至高者人間の國を治めて己れの意のままにこれを人に與へたまふと三三その時直にこの事ネブカデネザルに臨み彼は逐れて世の人に離れ牛のごとくに草を食ひてその身は天よりくだる露に濡れ終にその髪毛は驚の羽のごとくなりその爪は鳥の爪のごとくなりぬ三四斯てその日の満たる後我ネブカデネザル目をあげて天を望みしにわが分別性我に歸りたれば我至高者に感謝しその永遠に生る者を讚かつ崇めたり彼の御宇は永遠の御宇彼の國は世々かぎり無し三五地上の居民は凡て無き者のごとし天の衆群にも地の

居民にも彼はその意のままに事をなしたまふ誰も彼の手をおさへて汝なんぞ然するやと言ふことを得る者なし三六この時わが分別性かく我に歸りたりしがわが國の榮光につきてはまた我の尊嚴と光耀我にかへれり且また大臣牧伯等我に請求めて我ふたたび國の祚を踐み前よりも著しく威光を増たり三七是において我ネブカデネザル今は天の王を讚頌へかつ崇む彼の作爲は凡て眞實彼の道は正義自ら高ぶる者は彼能くこれを卑くしたまふ

第五章一ベルシヤザル王その大臣一千人のために酒宴を設けその一千人の者の前に酒を飲たりしが二酒の進むにいたりてベルシヤザルはその父ネブカデネザルがエルサレムの宮より取きたりし金銀の器を携へいたれと命ぜり是王とその大臣および王の妻妾等みな之をもて酒を飲んとてなりき三是をもてそのエルサレムなる神の宮の内院より取たりし金の器を携へいたりければ王とその大臣および王の妻妾等これをもて飲めり四すなはち彼らは酒をのみて金銀銅鐵木石などの神を讀たたりしが五その時に人の手の指あらはれて燭臺と相對する王の宮の粉壁に物書り王その物書る手の末を見たり六是において王の愉快なる顔色は變りその心は思ひなやみて安からず腿の關節はゆるみ膝はあひ撃り七王すなはち大聲に呼はりて法術士カルデア人卜筮師等を召きたらしめ而して王バビロンの智者等に告て言ふこの文字を讀みその解明を我に示す者には紫の衣を衣せ頸に

金の鏈をかけさせて之を國の第三の牧伯となさんと八王の智者等^{ども}は皆きたりしかどもその文字を讀^よこと能はずまたその解明^{とま}を王にしめすこと能はざりければ九ベルシヤザル王おほいに思ひなやみてその顔色を失へりその大臣等もまた驚き懼れたり〇時に大后王と大臣等の言を聞てその酒宴の室にいりきたり大后すなはち陳^のて言ふ願くは王長壽^のかれ汝心に思ひなやむ勿れまた顔色を失ふにおよはず一汝の國に聖神の靈のやどれる一箇の人あり汝の父の代に彼聰明了知および神の智慧のごとき智慧あることを顯せり汝の父ネブカデネザル王すなはち汝の父の王彼を立てて博士^の法術士カルデヤ人ト筮師等の長となせり三彼はダニエルといへる者なるが王これにベルテシヤザルといふ名を與へたり彼は心の殊勝たる者にて了知あり知識ありて能く夢を解き隱語を解き難問を解くなり然ばダニエルを召されよ彼のその解明をしめさんと三是においてダニエル召れて王の前に至りければ王ダニエルに語りて言ふ汝は吾父の王がユダより曳きたりしユダの俘囚人なるそのダニエルなるか一四我聞になんぢの裏には神の靈やどりて汝は聰明了知および非凡の智慧ありと云ふ一五我智者法術士等を吾前に召よせてこの文字を讀しめその解明を我にしめさせんと爲たれども彼らはこの事の解明を我にしめすことを得ず一六我聞に汝は能く物事の解明をなしかつ難問を解くと云ふ然ば汝もしく能くこの文字を讀みその解明を我に示さば汝に紫の衣を衣せ金の索を汝の頸にかけさ

せて汝をこの國の第三の牧伯となさんと七ダニエルこたへて王に言けるは汝の賜物は汝みづからこれを取り汝の饒物はこれを他の人に與へたまへ然ながら我は王のためにその文字を讀みその解明をこれに知せたまつらん一八王よ至高神汝の父ネブカデネザルに國と權勢と榮光と尊貴を賜へり一九彼に權勢を賜ひしによりて諸民諸族諸音みな彼の前に慄き畏れたり彼はその欲する者を殺しその欲する者を活しその欲する者を上げその欲する者を下ししなり〇而して彼心に高ぶり氣を剛愎にして驕りしかばその國の位をすべりてその尊貴を失ひ二逐れて世の人と離れその心は獸のごとくに成りその住所は野馬の中にあり牛のごとくに草を食ひてその身は天よりの露に濡たり是のごとくにして終に彼は至高神の人間の國を治めてその意のままに人を立たたまふといふことをしるにいたれり三ベルシヤザルよ汝は彼のの子にして此事を盡く知るといへども猶その心を卑くせず三却つて天の主にもむかひて自ら高ぶりその家の器皿を汝の前に持きたらしめて汝と汝の大臣と汝の妻妾等それをもて酒を飲み而して汝は見ことも聞ことも知こともあらぬ金銀銅鐵木石の神を讚頌ふることを爲し汝の生命をその手に握り汝の一切の道を主どりたまふ神を崇むることをせず四是をもて彼の前よりこの手の末いできたりてこの文字を書るなり二五その書る文字は是のごとしメネ、メネ、テケル、ウバルシン二六その言の解明は是のごとしメネ(數へたり)は神汝の治世を數へて

これをその終に至らせしを謂なりニモテケル（秤れり）は汝が
 權衡にて秤られて汝の重の足らざることの顯れたるを謂なりニ八
 ペレス（分たれたり）は汝の國の分たれてメディアとペルシヤに與
 へらるるを謂なりニ九是においてベルシヤザル命を降してダニ
 エルに紫の衣を着せしめ金の鏈をこれが頸にかけさせて彼は國
 の第三の牧伯なりと布告せりニ〇カルデヤ人の王ベルシヤザル
 はその夜の中に殺されニメディア人ダリヨスその國を獲たり
 此時ダリヨスは六十二歳なりき

第六章一ダリヨスはその國に百二十人の牧伯を立てることを善と
 し即ちこれを立て全國を治理しめニまた彼らの上に監督三人を
 立てたりダニエルはその一人なりき是はその州牧をして此三人の前
 にその職を述しめて王に損失の及ぶこと無ししめんためなりき
 ミダニエルは心の殊勝たる者にしてその他の監督および州牧等
 に勝りたれば王かれを立て全國を治めしめんとして四是におい
 てその監督と州牧等國事につきてダエルを訟ふる隙を得んとし
 たりしが何の隙をも何の咎をも見いだすことを得ざりき其は彼
 は忠義なる者にてその身に何の咎もなく何の過失もなかりけれ
 ばなり五是においてその人々言けるはこのダニエルはその神の
 例典について之が隙を獲にあらざればついにこれを訟るに由な
 すと六すなはちその監督と州牧等王の許に集り來りて斯王に言
 りダリヨス王よ願くは長壽かれ七國の監督將軍州牧牧伯方伯
 等みな相議りて王に一の律法を立て一の禁令を定めたまはんこ

とを求めんとす王よその事は是の如し即ち今より三十日の内は
 唯汝にのみ願事をなさしめ若汝をおきて神または人にこれを
 なす者あらば凡て獅子の穴に投げられんといふ是なり八然ば王よ
 ねがはくはその禁令を立てその詔書を認めメディアとペルシヤの
 廢ることなき律法のごとくに之をして變らざらしめたまへと九
 王すなはち詔書をしたためてその禁令を出せりニ〇茲にダニエ
 ルはその詔書を認めたることを知りて家にかけりけるがその二
 階の窓のエルサレムにむかひて開ける處にて一日に三度つつ膝
 をかがめて禱りその神に向て感謝せり是はその時の前よりして斯
 なし居たればなりニ斯りしかばその人々馳よりてダニエルが
 その神にむかひて禱りかつ求めをを見あらはせりニ而して
 彼ら進みきたり王の禁令の事につきて王に奏上して言けるは王
 よ汝は禁令をしたため出し今より三十日の内には只なんぢにの
 み願事をなさしめ若し汝をおきて神または人にこれをなす者あ
 らば凡てその者を獅子の穴に投げられんと定めたまへるならずや
 と王こたへて言ふ其事は眞實にしてメディアとペルシヤの律法の
 ごとく廢べからざる者なりニ彼らまた對へて王の前に言ける
 は王よユダの俘虜人なるダニエルは汝をも汝の認め出し給ひし
 禁令をも願みずして一日に三度つつ祈禱をなすなりと四王こ
 の事を聞てこれがために大に愁ひダニエルを救はんと心を用ひ
 即ちこれを拯げんと力をつくして日の入る頃におよびければ五
 その人々また王の許に集ひきたりて王に言けるは王よ知りたま

ヘメデアとペルシヤの律法によれば王の立たる禁令または法度は變へからざる者なりと一六是において王命を下しければダニエルを曳きたりて獅子の穴に投げられたり王ダニエルに語りて言ふ願くは汝が恒に事ふる神汝を救はんことをと七時に石を持きたりてその穴の口を塞ぎければ王おのれの印と大臣等の印をもこれに封印をなせり是ダニエルの處置をして變ることなからしめんためなりき一八斯て後王はその宮にかへりけるがその夜は食をなさずまた嬪等を召よせずして全く寝ることをせざりき九而して王は朝まだきに起いでてその獅子の穴に急ぎいたりしが二穴にいたりける時哀しげなる聲をあげてダニエルを呼びすなはち王ダニエルに言けるは活神の僕ダニエルよ汝が恒に事ふる神汝を救ふて獅子の害を免れしむることを得しや一ダニエル王にいひけるは願くは王長壽かれ三吾神その使をおくりて獅子の口を閉させたまひたれば獅子は我を害せざりき其は我の辜なき事かれの前に明かなればなり王よ我は汝にも惡しき事をなさざりしなりと三是において王おほいに喜びダニエルを穴の中より出せと命じければダニルは穴の中より出されけるがその身に何の害をも受をらざりき是は彼おのれの神を頼みたるによりてなり二四かくて王また命を下しかのダニエルを讒奏せし者等を曳きたらせて之をその妻子とともに獅子の穴に投げしめたるにその穴の底につかざる内に獅子はやくも彼らを攫みてその骨までもごとく咬砕けり二五是においてダリ

ヨス王全世界に住る諸民諸族諸音に詔書を頒てり云く願くは大なる平安なんぢらにあれ二六今我詔命を出す我國の各州のひとみなダニエルの神を畏れ敬ふべし是は活神にして永遠に立つ者またその國は亡びずその權は終極まで続くなり二七是は救を施し拯をなし天においても地においても休徵をほどこし奇蹟をおこなふ者にてすなはちダニエルを救ひて獅子の力を免れしめたりと二八このダニエルはダリヨスの世とペルシヤ人クロス世においてその身榮えたり

第七章一バビロンの王ペルシヤザルの元年にダニエルその牀にありて夢を見腦中に異象を得たりしが即ちその夢を記してその事の大意を述べ二ダニエル述て曰く我夜の異象の中に見てありしに四方の天風大海にむかひて烈しく吹きたり三四箇の大なる獸海より上りきたれりその形はおのおの異なり四第一のは獅子の如くにして驚の翼ありけるが我見てをりしに是はその翼を抜とられまた地より起され人のごとく足にて立せられ且人の心を賜はれり五第二の獸は熊のごとくなりき是はその體の一方を擧げその口の齒の間に三の脇骨を啣へ居るが之にむかひて言る者あり曰く起あがりて許多の肉を食へと六その後に見しに豹のごとき獸いでたりしがその背には鳥の翼四ありこの獸はまた四の頭ありて統轄權をたまはれり七我夜の異象の中に見しにその後第四の獸いでたりしが是は畏しく猛大に強くして大なる鐵の齒あり食ひかつ咬砕きてその殘餘をば足にて

踏つけたり是はその前に出たる諸の獸とは異なりてまた十の角ありき八我その角を考へ觀つつありけるにその中にまた一箇の小き角出きたりしがこの小き角のために先の角三箇その根より抜おちたりこの小き角には人の目のごとき目ありまた大なる事を言ふ口あり我觀つつありしに遂に寶座を置列ぶるありて日の老たる者座を占めたりしがその衣は雪のごとく白くその髪毛は漂潔めたる羊の毛のごとし又その寶座は火の焰にしてその車輪は燃る火なり〇而して彼の前より一道の火の流わきいづ彼に仕ふる者は千々彼の前に待る者は萬々審判すなはち始りて書を開けり二その角の大なる事を言ふ聲によりて我觀つつありけるが我が見る間にその獸は終に殺され體を壞はれて燃る火に投げ入れられたり三またその餘の獸はその權威を奪はれたりしがその生命は時と期の至るまで延されたり四我また夜の異象の中に觀てありけるに人の子のごとき者雲に乗て來り日の老たる者の許に到りたればすなはちその前に導ぎけるに四之に權と榮と國とを賜ひて諸民諸族諸音をしてこれに事へしむその權は永遠の權にして移りさらず又その國は亡ぶることなし

一五是において我ダニエルその體の内を憂へしめわが腦中の異象のために思ひなやみたれば一六すなはち其處にたてる者の一箇に就てこの一切の事の眞意を問けるに其者われにこの事の解明を告しらせて云く一七この四の大なる獸は地に興らんとする四人の王なり一八然ど終には至高者の聖徒國を受け長久に

その國を保ちて世々限りならんと一九是において我またその第四の獸の眞意を知んと欲せり此獸は他の獸と異なりて至畏るしくその齒は鐵その爪は銅にして食ひかつ咬碎きてその殘餘を足にて踏つけたり〇此獸の頭には十の角ありしが其他にまた一の角いできたりしかば之がために三の角抜おちたり此角には目ありまた大なる事を言ふ口ありてその状はその同類よりも強く見えたり我またこの事を知んと欲せり二我觀つつありけるに此角聖徒と戰ひてこれに勝たりしが三終に日の老たる者來りて至高者の聖徒のために公義をおこなへり而してその時いたりて聖徒國を獲たり三彼かく言り第四の獸は地上の第四の國なり是は一切の國と異なり全世界を并呑しこれを踏つけかつ打破らん四その十の角はこの國に興らんとする十人の王なり之が後にまた一人興るべし是は先の者と異なり且その王三人を倒すべし五かれ至高者に敵して言を出しかつ至高者の聖徒を惱ますん彼また時と法とを變んことを望まん聖徒は一時と二時と半時を経るまで彼の手に付されてあらん六斯て後審判はじまり彼はその權を奪はれて終極まで滅び亡ん七而して國と權と天下の國々の勢力とはみな至高者の聖徒たる民に歸せん至高者の國は永遠の國なり諸國の者みな彼に事へかつ順はん八その事此にて終れり我ダニエルこれを思ひまはして大に憂へ顔色も變りぬ我この事を心に蔵む

第八章一我ダニエル前に異象を得たりしが後またベルシヤザル

の第三年にいたりて異象を得たり。我異象を見たり。我これを見
 たる時に吾身はエラム州なるシユシヤンの城にあり。我が異象を
 見たるはウライ河の邊においてなり。我目を擧て觀しに河の
 上に一匹の牡羊立をり。之に二の角ありてその角共に長かりしが
 一の角はその他の角よりも長かりき。その長き者は後に長たるな
 り。我觀しにその牡羊西北南にむかひて牴觸りけるが之に敵る
 ことを得る獸一匹も無く。またその手より救ひいだすことを得
 る者絶て。あらざり。是はその意にまかせて事をなし。その勢威は
 なはだ盛なり。我これを考へ見つつありけるにて一匹の
 牡山羊全地の上を飛わたりて西より來りしがその足は土を履ざ
 り。きこの牡山羊は目の間に著明しき一の角あり。六此者さきに
 我が河の上立るを見たる彼の二の角ある牡羊に向ひ來り。熾盛
 なる力をもて之の所に跑たりけるが。我觀てあるに牡羊に近
 づくに至りて之にむかひて怒を發し。牡羊を撃てその二の角を碎
 きたるに牡羊には之に敵る力なかりければこれを地に打倒して
 踏つたり。然るにその牡羊をこれが手より救ひ得る者あらざり
 き。八而してその牡山羊甚だ大きくなりけるが。その盛なる時にあ
 たりてかの大なる角折れ。その代に四の著明しき角生じて。天の
 四方に對へり。九またその角の一よりして一の小き角いできたり
 南にむかひ。東にむかひ。美地にむかひて甚だ大きくなり。〇天
 軍におよぶまで。高くなり。その軍と星數箇を地に投ぐだして。こ
 れを踏つけ。二また自ら高ぶりて。その軍の主に敵し。その常供の

物を取のぞきかつ。その聖所を毀てり。二一軍罪の故によりて
 常供の物とともに棄られたり。彼者はまた眞理を地に擲ち事をな
 して。その意志を得たり。三かくて我聞に一箇の聖者語ひをりし
 が。又一箇の聖者ありて。その語ひをる聖者にむかひて言ふ。常供の
 物と荒廢を來らする罪とにつきて。異象にあらはれたる。ところ
 の事聖所とその軍との棄られて踏つけらるる事は。何時まで斯て
 あるべきかと。四彼すなはち我に言けるは。二千三百の朝夕をか
 さぬるまで。斯てあらん。而して聖所は潔めらるべし。五我ダニエ
 ルこの異象を見て。その意義を知んと求めをりける。時人のごとく
 見ゆる者わが前に立り。六時に我聞にウライ河の兩岸の間より
 人の聲出て呼はりて言ふ。ガブリエルよ。この異象をその人に曉ら
 しめよ。と。七彼すなはち我の立る所にきたりしが。その到れる時
 に。我おそれて仆れ伏たるに。彼われに言けるは。人の子よ。曉れ。此
 異象は終の時に。かかはる者なり。と。八彼の我に語ひける。時我は
 氣を喪へる。狀にて地に俯伏をりしが。彼我に手をつけて我を立せ
 言けるは。九視よ。我忿怒の終に起らんと。ころの事を汝に知せん
 此事は終末の期におよびて。あらん。〇汝が見たるかの二の角あ
 る牡羊は。メディアとペルシヤの王なり。三またかの牡山羊は。ギリ
 シヤの王その目の間の大なる角は。その第一の王なり。四またそ
 の角をれて。その代に四の角生じ。たれば。その民よりして。四の國
 おこらん。然ど第一の者の權勢には。及ばざるなり。五彼らの國の
 末にいたり。罪人の罪貫盈におよびて。一人の王おこらん。その顔は

猛惡にして巧に詭譎を言ひ、四その權勢は熾盛ならん、但し自己の能力をもて之を致すに非ず、その毀滅ことを爲は常ならず、意志を得て事を爲し、權能ある者等と聖民とを滅さん、二五彼は機巧をもて詭譎をその手に行ひ、遂げ心につつから高ぶり、平和の時に衆多の人を打滅し、また君の君たる者に敵せん、然ど終には人手によらずして滅さん、二六前に告たる朝夕の異象は眞實なり、汝その異象の事を秘し、おけは衆多の日の後に有べき事なり、二七是において我ダニエル疲れはてて、數日の間病わづらひて後興いでて、王の事務をおこなへり、我はこの異象の事を案ひて、駭けり人もまたこれを知ることを得ざりき

第九章一メデア人アハシユエロスの子ダリヨスがカルデヤ人の王とせられしその元年ニすなはちその世の元年に我ダニエル、エホバの言の預言者アレミヤにのぞみて告たるその年の數を書によりて、曉れり、即ちその言にエルサレムは荒て七十年を経んとあり、三是にかいて我面を主エホバに向け、斷食をなし、麻の衣を着、灰を蒙り、祈りかつ願ひて、求むることをせり、四即ち我わが神エホバに、禱り懺悔して、言り、嗚呼、大にして畏るべき神なる主、自己を愛し、自己の誠命を守る者のために、契約を保ち、之に恩恵を施したまふ者よ、五我等は罪を犯し、悖れる事を爲し、惡を行ひ、叛逆を爲して、汝の誠命と律法を離れたり、六我等はまた汝の僕なる預言者等が、汝の名をもて我らの王等、君等、先祖等、および全國の民に告たる所に、聽したが、はざりしなり、七主よ、公義は汝に歸し、羞辱

は我らに歸せり、その状、今日のごとし、即ちユダの人々、エルサレムの居民、およびイスラエルの全家の者は、近き者も遠き者も、皆汝の逐やりたまひし諸の國々にて、羞辱を蒙れり、是は彼らが汝に背きて、獲たる罪によりて、然るなり、八主よ、羞辱は我儕に歸し、我らの王等、君等、および先祖等に歸す、是は我儕、なんぢに向ひて、罪を犯したればなり、九憐憫と赦宥は、主たる我らの神の裏にあり、其は我らこれに、叛きたればなり、一〇我らはまた我らの神エホバの言に、遵はず、エホバがその僕なる預言者等によりて、我らの前に設けたまひし律法を行はざりしなり、一抑イスラエルの人は、皆汝の律法を犯し、離れざりて、汝の言に、遵はざりき、是をもて、神の僕モーセの律法に記したる、呪詛と誓詞、我らの上に、對きかかれり、是は我らこれに、罪を獲たればなり、二即ち神は大なる災害を我らに、蒙らせたまひて、その前に我らと我らを、鞠ける土師とに、むかひて、言ひし言を行ひとげたまへり、かのエルサレムに、臨みたる事の如きは、普天の下に、未だ、曾て有ざりしなり、三モーセの律法に記したる如くに、この災害、すべて我らに、臨みしかども、我らはその神エホバの面を、和めんと、も爲す、その惡を、離れて、汝の眞理を、曉らんと、も爲ざりき、四是をもて、エホバ、心にかけて、災害を我らに、降したまへり、我らの神エホバは、何事をなしたまふも、凡て、公義いまますなり、然るに、我らはその言に、遵はざりき、五主たる我らの神よ、汝は、強き手をもて、汝の民を、エジプトの地より、導き出して、今日のごとく、汝の名を、揚たまふ、我らは、罪を犯し、惡き事を行へり、一六主

よ願くは汝が是まで公義き御行爲を爲たまひし如く汝の邑エル
 サレム 汝の聖山より汝の忿怒と憤恨を取離し給へ其は我らの
 罪と我らの先祖の惡のためにエルサレムと汝の民は我らの周圍
 の者の笑柄となりたればなり二七 然ば我らの神よ僕の禱と願を
 聽たまへ汝は主にいませばかの荒をる汝の聖所に汝の面を耀
 かせたまへ一八 我神よ耳を傾けて聽たまへ目を啓きて我らの
 荒蕪たる状を觀汝の名をもて稱へらるる邑を觀たまへ我らが
 汝の前に祈禱をたてまつるは自己の公義によるに非ず唯なんぢ
 の大なる憐憫によるなり一九 主よ聽いたたまへ主よ赦したまへ
 主よ聽いれて行ひたまへこの事を遅くしたまふなかれわが神よ
 汝みづからのために之をなしたまへ其は汝の邑と汝の民は汝の
 名をもて稱へらるればなり二〇 我かく言て祈りかつわが罪とわ
 が民イスラエルの罪を懺悔し我神の聖山の事につきてわが神
 エホバのまへに願をたてまつりる時二一 即ち我祈禱の言をの
 べをる時我が初に異象の中に見たるかの人ガブリエル迅速に飛
 て晩の祭物を獻ぐる頃我許に達し三 我に告げ我に語りて言け
 るはダニエルよ今我なんぢを教へて了解を得せしめんとて出き
 たりり三 汝が祈禱を始むるに方りて我言を受たれば之を汝に
 示さんとて來れり汝は大に愛せらるる者なり此言を了りその
 現れたる事の義を曉れ二四 汝の民と汝の聖邑のために七十週
 を定めおかる而して惡を抑へ罪を封じ忿を贖ひ永遠の義を携へ
 入り異象と預言を封じ至聖者に膏を灌かん五 汝曉り知べし

エルサレムを建なほせといふ命令の出づるよりメツシヤたる君
 の起るまでに七週と六十二週ありその街と石垣とは擾亂の間
 に建なほされん二六 その六十二週の後メツシヤ絶れん但し是
 は自己のために非ざるなりまた一人の君の民きたりて邑と
 聖所とを毀たんその終は洪水に由れる如くなるべし戰爭の終
 るまでに荒蕪すでに極る二七 彼一週の間衆多の者と固く契約
 を結ばん而して彼その週の半に犠牲と供物を廢せんまた殘暴
 可惡者羽翼の上に立たん斯てつひにその定まれる災害殘暴る
 者の上に對ぎくだらん

第一〇章一ペルシヤの王クロスの三年にベルテシヤザルといふ
 ダニエル一の事の黙旨を得たるがその事は眞實にしてその
 戰爭は大なり彼その事を曉りその示現の義を曉れり三 當時我ダ
 ニエル三七日の間 哀めり三 即ち三七日の全く滿るまでは旨き
 物を食す肉と酒とを口にいれずまた身に膏油を抹ざりき四
 正月の二十四日に我ヒデケルといふ大河の邊に在り五 目を擧
 げて望觀しに一箇の人ありて布の衣を衣ウバズの金の帶を腰に
 しめをり六 その體は黄金色の玉のごとくその面は電光の如くそ
 の目は火の焰のごとくその手とその足の色は磨ける銅のごとく
 その言ふ聲は群衆の聲の如し七 この示現は唯我ダニエル一人こ
 れを觀たり我と偕なる人々はこの示現を見ざりしが何となくそ
 の身に慄きて逃かくれたり八 故に我ひとり遣りたるがこの大
 なる示現を觀るにおよびて力ぬげさり顔色まつたく變りて毫毛

力なかりき九 我その語心聲を聞けるがその語心聲を聞る時我は氣を喪へる状にて俯伏し面を土につけるたりしに二〇 一の手ありて我に捫りければ我戦ひながら跪つきて手をつきたるに二 彼われに言けるは愛せらるる人ダニエルよ我が汝に告る言を曉れよ汝まづ起あがれ我は今汝の許に遣されたるなりと彼がこの言を我に告る時に我は戦ひて立り三 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るる勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身をなやませるその初の日よりして汝の言はずでに聽れたれば我汝の言によりて來れり三 然るにペルシヤの國の君二十一日の間わが前に立塞がりけるが長たる君の一なるミカエル來りて我を助けたれば我勝留りてペルシヤの王等の傍にをる二 我は末の日に汝の民に臨まんとするところの事を汝に曉らせんとて來れりまた後の日に關はる所の異象ありと二五 かれ是等の言を我に宣たる時に我は面を土につけて居り辭を措ところ無りしが二六 人の子のごとき者わが唇に捫りければ我すなはち口を開きわが前に立る者に陳て言り我主よこの示現によりて我は畏怖にたへず全く力を失へり七 此わが主の僕いかでか此わが主と語ふことを得んとその時は我まつたく力を失ひて氣息も止らんばかりなりしが二八 人の形のごとき者ふたたび我に捫り我に力をつけて二九 言けるは愛せらるる人よ懼るる勿れ安んぜよ心強かれ心強かれと斯われに言ければ我力づきて曰り我主よ語りたまへ汝われに力をつけたまへりと三〇 彼われに言けるは汝は

我が何のために汝に臨めるかを知るや我今また歸りゆきてペルシヤの君と戦はんとすわが出行ん後にギリシヤの君きたらん三 但し我まづ眞實の書に記されたる所を汝に示すべし我を助け彼らに敵る者は汝らの君ミカエルのみ

第一章 我はまたメディア人ダリヨスの元年にこれを助け彼に力をそへたる事ありしなり二 我いま眞實を汝に示さん視よ此後ペルシヤに三人の王興らんその第四の者は富ること一切の者に勝りその富強の大なるを待みて一切を激發してギリシヤの國を攻ん三 また一箇の強き王おこり大なる威權を振ふて世を治めその意のままに事を爲ん四 但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん其は彼の兒孫に歸せず又かれの振ひしほどの威權あらず即ち彼の國は拔とられて是等の外なる者等に歸せん五 南の王は強からん然どその大臣の一人これに逾て強くなり威權を振はんその威權は大なる威權なるべし六年を経てのちかれら相結ばん即ち南の王の女子北の王に適て和好を圖らん然どその腕には力なしまたその王およびその腕は立ことを得じこの女とこれを導ける者とこれを生せたる者とこれに力をつけたる者はみな時におよびて付されん七 斯て後この女の根より出たる芽興りて之に代り北の王の軍勢にむかひて來りこれが城に打いりて之を攻て勝を得八 之が神々鑄像および金銀の貴き器具をエジプトに携へさらん彼は北の王の上にて年を重ねん九 彼南の王の國に打入ことあらん然ど自己の國に退くべし一〇 その

子等また憤激して許多の大軍を聚め進みきたり溢れて往來しその城まで攻寄せん二是において南の王大に怒り出きたりて北の王と戦ふべし彼大軍を興してこれに當らん然れどもその軍兵はこれが手に付されん三大軍すなはち興りて彼心に高ぶり數萬人を仆さん然れどもその勢力はこれがために増さじ三また北の王は退きて初よりも大なる軍兵を興し或時すなはち或年數を経て後かならず大兵を率ゐ莫大の輜重を備へて攻來らん四是時にあたりて衆多の者興りて南の王に敵せん又なんちの民の中の奸惡人等みづから高ぶりて事を爲しつひに預言をして應ぜしめん即ち彼らは自ら仆るべし五茲に北の王襲ひきたり壘を築きて堅城を攻おとさん南の王の腕はこれに當ることを得じ又その撰拔の民もこれに當る力なかるべし六之に攻きたる者はその意に任せて事をなさんその前に立つことを得る者なかるべし彼は美しき地に到らんその地はこれがために荒さるべし七彼その全國の力を盡して打入んとその面をこれに向へけれどまたこれと和好をなして婦人の女子を之に與へん然るにその婦人の女子は之がために身を滅すに至り何事も成あたはず毫も彼のために益する所なかるべし八彼またその面を島々にむけて之を多く取らん茲に一人の大將ありて彼が與へたる恥辱を雪ぎその恥辱をかれの身に與へかへさん九かくて彼の面を自己の國の城々に向ん而して終に躓き仆れて亡ん二〇彼に代りて興る者は榮光の國に人を出して租税を征斂しめん但

し彼は忿怒にも戰鬥にもよらずして數日の内に滅亡せん二また之にかはりて起る者は賤まるる者にして國の尊榮これに歸せざらん然れども彼不意に來り巧言をもて國を獲ん三洪水のごとき軍勢かれのために押流されて敗れん契約の君たる者も然らん三彼は之に契約をむすびて後詭計を行ひ上りきたりて僅少の民をもて勢を得ん四彼すなはち不意にきたりてその國の膏腴なる處に攻いりその父もその父の父も爲ざりしところの事を行はん彼はその奪ひたる物掠めたる物および財寶を衆人の中に散すべし彼は謀略をめぐらして堅固なる城々を攻取べし時の至るまで斯のごとくならん五彼はその勢力を奮ひ心を勵まし大軍を率ゐて南の王に攻よせん南の王もまた自ら奮ひ甚だ大なる強き軍勢をもて迎へ戦はん然ど謀略をめぐらして攻るが故にこれに當ることを得ざるべし六すなはち彼の珍膳に與り食ふ者彼を倒さんその軍兵溢れん打死する者衆かるべし七此二人の王は書をなさんと心にはかり同席に共に食して詭計を言ん然どもその志ならざるべし定まれる時のいたる迄は其事終らじ八彼は莫大の財寶をもちて自己の國に歸らん彼は聖約に敵する心を懷きて事をなし而してその國にかへらん九定まれる時にいたりて彼また進みて南に到らん然ど後の模様は先の様のごとくならざらん三〇即ちキツテムの船かれに到るべければ彼力をおとして還り聖約にむかひて忿怒をもらして事をなさん而して彼歸りゆき聖約を棄る者と相謀らん三二彼より腕

おこりて聖所すなはち聖城を汚し常供の物を撤除かせかつ
 残暴可惡者を立ん三彼はまた契約に關て罪を獲る者等を巧言
 をもて引誘して背かせん然どその神を知る人々は力ありて事を
 なさん三民の中の穎悟者ども衆多の人を教ふるあらん然なが
 ら彼らは暫時の間刃にかかり火にやかれ虜はれ掠められ等し
 て仆れん四その仆る時にあたりて彼らは少しく扶助を獲ん
 又衆多の人詐りて彼らに合せん五また穎悟者等の中にも仆る
 者あらん斯のごとく彼らの中に試むる事淨むる事潔よくす
 る事おこなはれて終の時にいたらん即ち定まれる時まで然るべ
 し三六此王その意のままに事をおこなひ萬の神に逾て自己を高
 くし自己を大にし神々の神たる者にむかひて大言を吐き等して
 忿怒の息む時までその志を得ん其はその定まるところの事
 なさ
 ぬさ
 の愉快を思はずまた何の神をも顧みざらん其は彼一切に逾て
 自己を大にすればなり三八彼はこれの代に軍神を崇め金銀珠寶お
 よび寶物をもてその先祖等の識ざりし神を崇めん三九彼はこの
 異邦の神に由り要害の城々にむかひて事を爲ん凡て彼を尊ぶ者
 には彼加ふるに榮を以てし之をして衆多の人を治めしめ土地を
 これに分ち與へて賞賜とせん四〇終の時にいたりて南の王彼と
 戦はん北の王は車と馬と衆多の船をもて大風のごとく之に攻寄
 せ國に打いりて潮のごとく溢れ渉らん四一彼はまた美しき國に
 進み入ん彼のために亡ぶる者多かるべし然どエドム、モアブ、ア

ンモン人の中の第一なる者などは彼の手を免かれん四二彼國々
 にその手を伸さんエジプトの地も免かれがたし四三彼は遂にエ
 ジプトの金銀財寶を手に入れん四四ア人とエテオピア人は彼の
 後に從はん四五彼東と北より報知を得て周章ふためき許多の人
 を滅し絶んと大に忿りて出ゆかん四五彼は海の間において美し
 き聖山に天幕の宮殿をしつらは然ど彼つひにその終にいたら
 ん之を助くる者なかるべし
 第一二章一その時汝の民の人々のために立ところの大なる君ミ
 カエル起あがらん是艱難の時なり國ありてより以來その時にい
 たるまで斯る艱難ありし事なかるべしその時汝の民は救はれ
 ん即ち書にしるされたる者はみな救はれん二また地の下に睡り
 てる者の中衆多の者目を醒さんその中永生を得る者ありま
 た恥辱を蒙りて限なく羞る者あるべし三穎悟者は空の光輝のご
 とくに耀かんまた衆多の人を義に導ける者は星のごとくなりて
 永遠にいたらん四ダニエルよ終末の時まで此言を秘し此書を封
 じおけ衆多の者跋渉らん而して知識増べしと五茲に我ダニエル
 觀に別にまた二箇の者ありて一箇は河の此岸の岸にあり一箇は
 河の彼岸の岸にありけるが六その一箇の者かの布の衣を衣て河
 の水の上に立る人にむかひて言ひ此奇跡は何の時に行たりて終
 るべきやと七我聞にかの布の衣を衣て河の水の上に立る人天に
 むかひてその右の手と左の手を擧げ永久に生る者を指て誓ひ
 て言ひその間は一時と二時と半時なり聖民の手の碎くること

終らん時に是等の事みな終るべしとハ我聞たれども曉ることを
得ざりき我また言りわが主よ是等の事の終は何ぞやと九彼いひ
けるはダニエルよ往け此言は終極の時まで秘しかつ封じ置る
べし○衆多の者浄められ潔よくせられ試みられん然と悪き者
は悪き事を行はん悪き者は一人も曉ること無るべし然と穎悟者
は曉るべし二常供の者を除き殘暴可惡者を立ん時よりして一
千二百九十日あらん三待をりて一千三百三十五日に至る者
は幸福なり三汝終りに進み行け汝は安息に入り日の終りに至
り起て汝の分を享ん